

< 学部用 >

科目コード☆			開 講 期	通年
専 修	心理学			
講義別	演習		毎週時間	2
担当教官 (職名・氏名)	教授	苧阪 直行 藤田 和生 櫻井 芳雄 板倉 昭二 蘆田 宏	単 位	4
	教授		曜 時 限	水曜1限
	助教授		対象回生	3~4
助教授				
題 目	演習I			
解 説 (他専修と共通で「従」の場合を除き、空白不可。)	3回生対象の演習。心理学の諸問題について、発表と討議を行う。			
テキスト・参考文献				
備 考				

(注) ☆印欄は記入不要。

< 学部用 >

科目コード☆			開講期	通年
専修	心理学			
講義別	演習		毎週時間	2
担当教官 (職名・氏名)	教授	苧阪 直行 藤田 和生 櫻井 芳雄 板倉 昭二 蘆田 宏	単 位	4
	教授		曜 時 限	月曜4限
	助教授		対象回生	4
助教授				
題 目	演習Ⅱ			
解 説 (他専修と共通で「従」の場合を除き、空白不可。)	4回生対象の演習。主に卒業研究に関して発表と討議を行う。			
テキスト・参考文献				
備 考				

(注) ☆印欄は記入不要。

< 学部用 >

科目コード☆			開講期	通年
専修	心理学			
講義別	実習I		毎週時間	4
担当教官 (職名・氏名)	教授	苧阪 直行 藤田 和生 櫻井 芳雄 板倉 昭二 芦田 宏	単 位	4
	教授		曜 時 限	火曜4・5限
	助教授		対象回生	2～4
助教授				
題 目	心理学基礎実験			
解 説 (他専修と共通で「従」の場合を除き、空白不可。)	<p>心理学実験の基礎についての実習。 前期は心理学連合共通科目として実施される。初回に受講計画を決めるため、必ず出席すること。後期は引き続き文学部のみで実施される。 なお、心理学専修を希望する2回生は必ず受講すること。</p>			
テキスト・参考文献				
備 考	心理学専修希望者は必ず文学部で心理学実習Iとして登録すること(前期のみの全学科目として登録しないこと)。			

(注) ☆印欄は記入不要。

< 学部用 >

科目コード☆			開講期	通年
専修	心理学			
講義別	実習Ⅲ		毎週時間	2
担当教官 (職名・氏名)	教授	苧阪 直行 藤田 和生 櫻井 芳雄 板倉 昭二 蘆田 宏	単 位	2
	教授		曜 時 限	木曜2限
	助教授		対象回生	3~4
助教授				
題 目	心理学特殊実験			
解 説 (他専修と共通で「従」の場合を除き、空白不可。)	3 回生対象の実験実習。実習Ⅰでの経験をもとに、各自が研究テーマを設定し、実験計画の策定から実験の実施、分析など、年間を通して行う。			
テキスト・参考文献				
備 考				

(注) ☆印欄は記入不要。

＜系共通科目（講義）用＞

科目コード☆			開講期	通年
専修	系共通科目			
講義別	講義 I		毎週時間	2
担当教官	職名	氏名	単位	4
	教授	苧阪 直行	曜時限	月3
	教授	藤田 和生	対象回生	2～4
	教授	櫻井 芳雄		
助教授	板倉 昭二			
助教授	蘆田 宏			
題目	心理学講義 I（実験心理学概論）			
授業のテーマと目的★	ヒトや動物の行動を解明するための実験心理学的手法とその成果について概説する。			
授業計画と内容★	<p>実験心理学の諸領域について、最新のトピックやデモを織り込みながら講座の教官全員によるリレー形式で講じる。（状況に応じて若干変更される場合がある）。</p> <p>櫻井：脳、神経、情報処理 — まず実験心理学が扱う研究分野や研究方法を概観的に紹介する。次に、行動を生成し制御する脳を取り上げ、その構造と機能について概説する。特に神経回路の活動と情報処理に着目し、それがどのようにして記憶、情動、攻撃、精神疾患などに関わるのか、現在の研究成果に基づき解説する。</p> <p>藤田：学習、思考、言語 — まずあらゆる高次な行動の基礎を形成している学習過程について解説する。ついで、人間の課題解決に見られる内的情報処理過程—思考—の特徴を解説する。さらに人間の最大の特徴とも言える言語処理過程の特徴について、ヒト以外の動物のコミュニケーションと比較しながら論じる。</p> <p>板倉：発達、情動、動機づけ — まず、人間の基本的な発達、特に認知の発達過程について解説する。ついで、人間の情動表出や理解のメカニズムについて基本的な理論を紹介する。さらに、人間の行動を駆り立てるもとになる動機づけの過程やメカニズムについて諸説を紹介しながら論じる。</p> <p>蘆田：知能、感覚・知覚— 知能の測定と人工知能、感覚・知覚の基礎と心理物理学、知覚と行動、知覚と脳 について概説する。</p> <p>苧阪：記憶、歴史、方法 — 言語や視覚の記憶を概説し、脳と記憶、さらに注意や意識とのかわりについて考える。また、実験心理学の研究の歴史を学びながら心への科学的アプローチを可能にしてきた研究方法についてもデモをまじえて概説する。</p>			
成績評価の方法★	筆記試験			
コメント★	心理学専修希望者は2回生にて履修することが望ましい。			
履修要件★	なし。			
テキスト・参考文献★	授業にて指示			
備考				

(注) 1. ☆印欄は記入不要。

2. ★印欄は他専修共通科目で「従」の場合、記入不要

<学部用>

科目コード☆			開講期	前期
専修	心理学			
講義別	心理学講義Ⅱa		毎週時間	2
担当者 (職名・氏名)	教授	苧阪 直行	単位	2
			曜時限	月曜日 5限
			対象回生	3~4
題目	ワーキングメモリと意識			
解説 (他専修と共通で「従」の場合を除き、空白不可。)	視覚や言語などや意識の高次認知にかかわるワーキングメモリと意識の役割について考える。とくにワーキングメモリが視覚や言語の情報統合に果たす役割について高次脳機能を通して概説する。			
テキスト・参考文献	文献: 苧阪直行(監訳)脳と意識のワークスペース(バース著)、協同出版(2004)			
備考				

(注) ☆印欄は記入不要。

<学部用>

科目コード☆			開講期	前期
専修	心理学			
講義別	講義Ⅱb		毎週時間	2
担当者 (職名・氏名)	教授	藤田 和生	単位	2
			曜時限	月曜日 2限
			対象回生	3~4
題目	学習と認知の系統発生論			
解説 (他専修と共通で「従」の場合を除き、空白不可。)	<p>ヒトの認知機能は数十億年にわたる進化の所産である。化石種の認知機能が直接的に調べられない以上、他の現生動物種の認知機能を分析し、相互に比較することが、その過程を跡づけるための可能な唯一の方法である。講義では、学習の原理について復習したあと、比較心理学的観点から、多様な動物種の感覚や知覚、記憶、言語、概念形成、社会的知性、意識などについて現在までに得られた諸事実を紹介し、心の多様性とその進化について論じるとともに、ヒトの心を動物たちの心の中にどのように位置づければよいかを考える。</p>			
テキスト・参考文献	<p>主要参考書:「比較認知科学への招待」(藤田著、ナカニシヤ出版、1998)</p>			
備考				

(注) ☆印欄は記入不要。

< 学部用 >

科目コード☆			開講期	後期
専修	心理学			
講義別	心理学講義Ⅱc		毎週時間	2
担当教官 (職名・氏名)	教授	櫻井 芳雄	単位	2
			曜時限	月曜日 2限
			対象回生	3~4
題目	記憶と情報処理の神経科学			
解説 (150字程度)	<p>脳の働きを担う神経メカニズムについて、神経科学的観点から解説する。主なるテーマは、脳科学の目的と方法、脳の構造と神経細胞、視覚情報処理、運動情報処理、記憶情報処理、情動情報処理、精神疾患と脳、等である。</p>			
テキスト・参考文献	<p>主要参考書:「考える細胞ニューロン」(櫻井芳雄著、講談社 2002)</p>			
備考				

(注) ☆印欄は記入不要。



< 学部用 >

科目コード☆			開講期	前期
専修	心理学			
講義別	心理学講義Ⅱd		毎週時間	2
担当教官 (職名・氏名)	助教授	板倉 昭二	単 位	2
			曜 時 限	火曜日 2限
			対象回生	3～4
題 目	社会的認知発生論			
解 説 (150字程度)	社会的認知(Social cognition)の発生および発達を、最新の研究報告をもとに、新生児から幼児期にわたって概説する。特に、自己認識、他者認識、他者間の関係性の認識に焦点を当てて、さまざまな研究を紹介するとともに、理論的なフレームの構築も試みる。			
テキスト・参考文献	主要参考書「自己の起源」(板倉昭二著、金子書房 1999)			
備 考				

(注) ☆印欄は記入不要。

＜系共通科目（講義）用＞

科目コード☆			開講期	後期
専修	系共通科目(心理学)			
講義別	講義		毎週時間	2
担当者 (職名・氏名)	助教授	蘆田 宏	単位	2
			曜時限	月5
			対象回生	3～4
題目	心理学講義 IIe (視覚の心理学)			
授業のテーマと目的	視知覚に関する概論			
授業計画と内容	人間の視知覚の諸機能とそのメカニズムについて概説する. 主なトピック:眼のしくみ, 眼から脳へ, 視覚の神経情報処理, 色覚と表色, 空間知覚, 動き知覚, 自己運動感覚, 錯視, 顔知覚, など			
成績評価の方法	レポート(予定)			
コメント				
履修要件				
テキスト・参考文献	授業で指示			
備考				

(注) ☆印欄は記入不要。

<大学院用>

科目コード☆			開講期	通年
専修	心理学			
講義別	演習		毎週時間	2
担当教官 (職名・氏名)	教授 教授 教授 助教授 助教授	苧阪 直行 藤田 和生 櫻井 芳雄 板倉 昭二 蘆田 宏	単位	2
			曜時限	火曜3限
題目	現代心理学の諸問題			
解説 (150字程度)	各自の研究テーマとその進捗状況について発表し、討論を行う。			
テキスト・ 参考文献				
備考				

(注) ☆印欄は記入不要。

<大学院用>

科目コード☆			開講期	後期
専修	心理学			
講義別	特殊講義		毎週時間	2
担当者 (職名・氏名)	教授	苧阪 直行	単位	2
			曜時限	火曜日 5限
題目	ワーキングメモリにおける認知的制御の役割			
解説 (他専修と共通で「従」の場合を除き、空白不可。)	ワーキングメモリの情報統合における注意の機能の問題を認知的制御の観点からとらえ、物体認知や言語認知について考える。とくに、高次脳における高次視覚野、頭頂連合野、前頭前野と前部帯状回の役割を中心にみてゆく予定である。			
テキスト・参考文献	文献: 苧阪直行(編)脳とワーキングメモリ、京大学術出版会(2000)			
備考				

(注) ☆印欄は記入不要。

< 大学院用 >

科目コード☆			開 講 期	前期
専 修	心理学			
講義別	特殊講義		毎週時間	2
担当者 (職名・氏名)	教 授	藤田 和生	単 位	2
			曜 時 限	水曜日 2限
題 目	比較認知科学特論			
解 説 (他専修と共通で「従」の場合を除き、空白不可。)	<p>十種の動物がいれば十の心がある。心はいかに進化したのか、ヒトの独自性はどこにあるのか、といった問題を、比較認知研究における最新のトピックスについて解説しながら考察する。基礎知識として「比較認知科学への招待」(藤田著、ナカニシヤ出版、1998)を一読しておいてもらいたい。毎時間、討論の時間を設ける。そこでは、過去の研究への批判よりも、新たな仮説や新たな問いの導出とその検証方法の模索といった発展的で建設的な討論をおこないたい。討論への積極的な参加を期待する。</p>			
テキスト・参考文献	「比較認知科学への招待」(藤田著、ナカニシヤ出版、1998)			
備 考				

(注) ☆印欄は記入不要。

<大学院用>

科目コード☆			開講期	後期
専修	心理学			
講義別	特殊講義		毎週時間	2
担当教官 (職名・氏名)	助教授	板倉 昭二	単位	2
			曜時限	水曜日 3限
題目	発達認知科学特論			
解説 (150字程度)	近年、乳幼児研究の進展には目覚ましいものがあり、発達初期の乳児でも極めて優れた認知能力を持つことが示されてきた。本講義では、人間の発達を、乳幼児期に焦点を当てて解説する。特に、物理的世界の認識および社会的世界の認識の発達のプロセスやメカニズムについて討論をおこない、理解を深める。			
テキスト・参考文献				
備考				

(注) ☆印欄は記入不要。

< 大学院用 >

科目コード☆			開 講 期	後 期
専 修	心理学			
講義別	特殊講義		毎週時間	2
担当教官 (職名・氏名)	教 授	櫻井 芳雄	単 位	2
			曜 時 限	水曜日 2限
題 目	認知神経科学特論			
解 説 (150 字程度)	<p>脳の情報処理を担う神経回路網のメカニズムについて、最新の実験的研究に基づき解説する。特に、情報コーディング、シナプス可塑性、個性形成、等に焦点を当て、脳独特の柔軟性とそれを検出するための研究ストラテジーについて考察する。</p>			
テキスト・参考文献	<p>主要参考書:「考える細胞ニューロン」(櫻井芳雄著、講談社、2002)</p>			
備 考				

(注) ☆印欄は記入不要。

<大学院用>

科目コード☆			開講期	前期
専修	心理学			
講義別	特殊講義		毎週時間	2
担当者 (職名・氏名)	助教授	蘆田 宏	単 位	2
			曜 時 限	火5
題 目	視覚科学特論			
解 説 (他専修と共通で「従」の場合を除き、空白不可。)	<p>視覚科学(vision science)の方法と成果について。心理物理学とニューロイメージングの方法論を中心に、基礎から最近の展開まで論じる。</p> <p>主なトピック: 視覚の線形性とフーリエ解析, 時空間特性, 心理物理学的測定とその発展, fMRI による視覚野の解析, fMRI 研究の発展, 初期視覚の数理モデル, など</p>			
テキスト・参考文献	授業で指示			
備 考				

(注) ☆印欄は記入不要。